

## 令和3年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第3回全体会
開催日時	令和4年2月10日(木) 午前10時00分から午前11時45分まで
開催場所	人材育成センター4階 AB研修室
出席者	<b>【委員15人】</b> 大石会長、小松原委員、鈴木委員、大山委員、折登委員、 安達委員、村上委員、大畑委員(欠)、岡村委員、香月委員、上村 委員、谷本委員、町田委員、水寄委員、河村委員、堀委員 <b>【区側】</b> 事務局(政策経営部長(欠)、経営改革担当課長、事務局職員3人) 環境課(環境課長、緑と花のまち推進係長) 商工振興課(商工振興課長、工業振興係長)

### 会議概要

#### 1 開会

#### 2 答申内容をふまえた取組内容報告

(各所管課より取組内容報告後、質疑応答)

##### (1) 第一分科会

##### 【緑と花のまちづくり事業】

(成果・コスト)

- A 委員：費用対効果が低いとは思わないが、これで良しとするのではなく、今後も良い事業になるよう検討してほしい。
- B 委員：花壇活動をする上でお茶代などの経費が必要になる。区として補助をどのように考えているか。また、学校の先生にも協力してもらえるが、先生が替わってしまうと活動してもらえないことがある。安定的に実施するにはどうすればいいか。
- 環境課：区としては花苗や道具を提供することを活動の支援としており、お茶代などの費用を補助することは難しいと考える。学校との関係については、学校の花壇活動をする上で青少年委員やPTAの方々など様々な方が関わっていると思う。そういった方々の協力を得ながら活動を継続できたらと考えている。
- B 委員：協力団体がいる活動団体は、ユニフォームを作る等の支援を受けて

いると思うが、支援を受けられない活動団体への支援についても考えてほしい。

環境課：社会福祉協議会と連携している花壇活動の場合、補助をもらえる仕組みがある。条件など、事業制度のご紹介をさせていただきたい。

C 委員：これまでの活動については、一定の評価をしたい。

D 委員：緑と花のまちづくり事業の数値的なゴールはどのようなものか。本事業においては、植栽面積の数値的な目標が必要かと思う。

環境課：緑被率を指標としているが、10年前は16%であったが、この10年間で18%に向上しており、本事業の効果もあったと感じている。最終的な数値目標については、今後検討したい。

E 委員：成果指標で事業にかかる植栽面積の合計を設定し、活動指標も設定しているが、こういった指標は、事業の数値的なゴールとして考えていないのか。

環境課：事業の成果を毎年度測るため、植栽面積の合計を指標として設定しているが、最終的な指標としては緑被率の向上が一つの目安になると思う。

#### (今後の方向性)

F 委員：私は堀切に住んでいるが、最近、近くの工場敷地の一角に環境課の看板が設置されている花壇ができた。分科会で委員から街角に花を植えて欲しいとの意見があり、それを実行されたと受け止め、嬉しく感じた。

G 委員：各学校で開催している花壇コンクールの事業について、今後も参加者が増えるよう促してほしい。

A 委員：担い手の拡大について考えると、東京理科大学や専門学校といった区内の学生も協働として一緒に花壇活動できるよう、仕組みを考えてほしい。また、女性の視点やSDGsの視点も重要視しながら事業を展開してほしい。

環境課：都立農産高校とは、環境緑化フェアやフラワーメリーゴーランドの開発に携わってもらっている。他には東京聖栄大学とも連携をしている。東京理科大学については、今後検討したい。

E 委員：フラワーメリーゴーランドについて、植栽デザインをより良くするために検討すると記載しているが、見た目の向上よりも、費用対効果の高いものになるよう検討してほしい。また、SDGsとの関連性について、団体へ配付している花苗を多年草などへシフトすると記載しているが、花苗はこれまでも選定した結果のものを使っており、シフトすることが難しいと思っていた。これは、具体的にどのよ

うな花苗へ替えようとしているのか教えてほしい。

環境課：これまで区は、オリンピック・パラリンピックに向けて花にこだわってきたが、他自治体の導入例として、宿根草を交えることで植え替えの機会を少なくするといった工夫がなされおり、参考にしたいと考えている。今後は、花の見た目に加え、植え替えを少なくできるというコスト低減も意識した花苗を選定したいと考えている。また、多年草や宿根草を育てるにはその特徴を理解する必要があるため、活動団体の方に対しての花壇管理講習会などを開催し、伝えていきたい。

会長：個人の活動に対してどのような支援を考えているか。

環境課：具体的には、スマートパネルの工作教室やオンライン講座を実施したいと考えている。

H 委員：緑被率 18%という説明があったが、緑と花のまちづくり事業としては数%しかないのではないか。公園課も類似の事業をしていると思うが、連携をしていくべきである。

環境課：公園課や道路管理課が行っている事業においても、花いっぱいのみまちづくり活動については、環境課から花苗を一部提供するなど連携をしている。

D 委員：重点事業なのに、直接事業費がここ数年減少している点が疑問である。感想にはなるが、事業費が10倍以上高くても良いと考えている。

会長：このような意見が出ているので、所管課には頑張ってもらいたい。

## (2) 第二分科会

### 【葛飾ブランド創出支援事業】

#### (成果・コスト)

I 委員：産業フェアへ行った際に、認定式の開催や、葛飾ブランドのブースがある等、様々なPRをしていることを知った。テクノプラザ内も、意識しているからか認定製品の展示も多数あったと実感している。葛飾ブランド認定については、工業に特化してほしいと思う。

J 委員：認定を受けた企業同士の交流が少ないとの意見があったため、区としてはそこに力を入れてほしいと思う。

商工振興課：交流会については、毎年実施していたが、コロナ禍の中で実施できていない状況である。ただ、見本市などの展示会に出展することで他の企業と話をすることができ、そこから商談に結び付くと聞いている。今後も、区として色々な企業が集まる場を提供したいと考えている。

#### (今後の方向性)

H 委員：この種類の事業は、葛飾区にとって必要だと思う。事業内容を確認すると、所管課としては、よくやっていると思う。そのような状況の中で、なぜ葛飾区行政評価委員会の対象事務事業になったのかを考えてほしい。例えば、一般区民にとっては認知度が低いと思われ、そこを課題と捉え、今後認知度向上を目指していくのであれば、認知度調査などを繰り返しやるべきではないか。

商工振興課：企業側からは、行政から認定を受けることによって他企業にも売り込みやすく、販路拡大につながっているとの評価をもらっている。しかし、区民への認知度を向上させることも必要だと考えているため、PRも行いたい。

K 委員：認定特典の見本市出展助成が、既存の他事業に統合したというのは、答申の結果が反映されたという点で良かったと感じる。また、成果の把握について、成果指標は聞き取り調査を活用した「認定企業の満足度」としていくと記載しているが、葛飾ブランド認定が区民に知られていないという課題は分科会の中でも出た意見であり、「葛飾ブランド認定が認知度向上に役立っているか」という検証は必ずしてほしいと考える。そして、役立っている場合は、その理由を把握し、役立っていない場合は、どうすれば良いのかといった改善希望を把握し、事業をより良くしてほしい。何となく良かったといった満足度の調査で終わらないでほしい。認知度を向上させるためにはどうすれば良いのかということ、企業と区が共に考えていける仕組みを作してほしい。さらに、認知度向上について、教育委員会から各学校に向けて動画利用の依頼をしていると記載しているが、依頼をただけでは連携にならないため、どのような活用をしているかを把握し、活用していない学校へ事例を示すなどPRをしてほしい。今後は産業フェアに行けない学生や大人に向けても、オンラインで楽しめる仕組み作りが必要ではないかと思う。

商工振興課：アンケート項目については、いただいたご意見を踏まえて作りたい。産業フェアについては、専用ホームページ上で工場の様子などを動画で紹介しているため、引き続きPRをしたいと考えている。

L 委員：事務事業改善の取組だが、これまで議論した内容を反映していると思う。私は、この事業に関し、未来の産業を担ってくれる子供たちへの教育、現在の販路拡大や認知度向上、葛飾ブランド認定を受けられるような商品がない企業に対してもどのような支援ができるのか、という3つの視点があると考えており、今後の事業展開もこの視点を意識してほしい。

商工振興課：葛飾ブランドは製品だけでなく、技術に対しても認定しており、技術をPRする会社も増えてほしいと考えている。また、認定している企業から他企業へ口コミによって事業の魅力が伝わることで、葛飾ブランド認定へ応募をする企業も出てきており、そのような点も後押ししたいと考えている。

M 委員：企業に対して聞き取り調査を進めてほしいと思う。また、ブランドというのは認知度に比例して価値が高まると思うので、認知度向上のための活動を継続してほしいと思った。

商工振興課：様々なところでPRをしたいと考えている。

D 委員：最終的な認定企業数の目標値を教えてください。

商工振興課：最終的な認定企業数の目標をお示しするのは難しいが、毎年5社程度の認定を継続したいと考えている。

A 委員：認知度が低いという点は以前からも懸案事項であったはずである。今回の取組内容の中で、柴又の観光案内所において製品PRに寄与していると記載しているが、そうは思えない。PRが足りないと考えている。また、テクノプラザかつしかに製品を展示する件についても、スペースの関係というのは答えになっていないと思う。さらに、葛飾町工場物語集に関して、小学生向けの冊子としていないと断言するのではなく、小学生にどうやったらPRできるか考えてほしい。例えばリモートの授業の題材とすることもできるのではないか。官民一体を意識して取り組んでほしい。

商工振興課：葛飾町工場物語集は、あくまでも企業向けに作っているものであるが、認知度向上のために産業フェアでのPRや広報かつしかも活用したいと考えている。

B 委員：葛飾ブランドを消費につなげようとしているのであれば、大いに宣伝すべきである。また、企業の事業拡大のために行っているのであれば、研究費の助成をするなどの支援も必要ではないか。テクノプラザへ行く区民はごく一部であることを考えた場合、私も小学生へPRすることは大事かと思う。

商工振興課：新製品を作るための研究費の補助金を出すということは、実施している。

I 委員：葛飾の町工場は後継者不足であるため、町工場も就職先の一つと考えてもらえるよう、中学校や都立高校へのPRもしてほしいと思う。

商工振興課：商工会議所とも協力しながら、新たなPR方法を検討したい。

N 委員：葛飾ブランドへの応募の中で、葛飾ブランドは認定数を増やすことが目的ではなく、一定の水準を超えた製品や技術に葛飾ブランドを

付与すると記載されている。そうであれば、成果指標に認定製品・技術数を設定しているのは意味がなく、代わる成果指標として、認定企業の満足度を設定することになるかと思う。ヒアリングシートをどのような内容にするのか等、今後具体的に検討し、委員へお示ししてほしい。

商工振興課：ヒアリングについては3年ごとに実施する予定である。ヒアリング項目については、今後検討したい。

### 3 事務連絡

### 4 閉会